

# 地域を知ろう(24)

## 民話・伝説

### No.4 高円寺創立伝説

#### 高円寺創立伝説

この高円寺という地名で呼ばれるずつと前のことです。南北を雑木林や森に囲まれ、その間は帯のような田んぼになっていました。

真中を桃園川が流れていたので、その頃はまだ桃園の名もなかつたのです。人家も数軒あつた程度の淋しい処でした。一人ある日、一人の老人がどこからかこの地に來て、一軒のお百姓さん家に「一晩泊めてくださいませんか、途中で歩けません」と言いました。この農家は父と娘の二人住まいで、この年は作物が不作で皆んな困つていました。

娘は食物もなく汚い処でと断りましたが、旅人の「どんなところでもよさいから泊めてください」という願いに旅人を泊めることにしました。

娘は旅人に何か食べさせる物をと

外に出かけて行きました。その留守に父は、この旅人が相当なお金を持つているのを見抜き、その金を奪おうと悪心を起しました。

娘の帰らぬうちに始末をつけようと、甘い言葉で旅人を油断させて背後から紐で首を絞めて殺し、持っていった金を盗むやいずこへか逃げてしまつた。

食物を買つた娘は、家の敷居をまいて、立ちすくんでしまひました。首に紐を巻かれて、すでにこの切れて、旅人の遺体にするが、つて泣き崩れ「私がもつと早く帰ればこんなことにならなかつたのだ」と悔やんだのです。

娘はやがて氣を取り戻し、旅人の菩提を弔うべく決心して黒髪を切つて出家し、尼となりました。近所の人たちの協力で近くに小さい庵建て

てもらい、ここで尼となつた娘は朝晩お経を唱え旅人の靈を慰めて一生を終りました。

やがて時は過ぎ、弘治元年(一五五五年)布教のためこの地を巡回して來た有名な高僧建室和尚は、この話を聞いて哀れな娘と旅人の靈を弔うべく無人の荒廢した庵を修理して一寺を作つたのだそうです。

これが高円寺創立の伝説といわれています。

